

# せん じゆ ふ し こう 千住の富士講



▲北口本宮浅間神社に奉納された丸 千住元講の絵馬



▲千住十三夜同行富士登山記念写真(昭和25年)

江戸初期の富士行者角行によって形づくられた富士講は、享保18(1733)年に身祿行者が富士山に入定を行なったことを契機に、江戸市中を中心に組織されました。各地に富士を模倣したミニチュアの塚が多数築かれました。千住の富士講は、享保期から活動が確認され、最も盛になったのは庚申の年にあたる大正9(1920)年前後でした。大川町氷川神社・千住神社・柳原稻荷神社の3か所に富士塚があります。毎年7月1日の山開きに合わせて祭りが行われます。



▲丸参千住同行(千住神社・千住元町24-1)  
大正12年5月に築造した富士塚の横には、およそ4mに及ぶ登山記念碑が建っています。



◀千住十三夜同行  
(千住大川町氷川神社・千住大川町12-3)

もともと川田耕地に祀られていたため「川田富士」とも呼ばれます。大正5年に現在地に移転しました。頂上の石祠には享保2(1717)年の記年があります。また境内には、元治元(1864)年に作られた黒のビロードの繰取りに、緋羅紗で「丸参千住十三夜同行」と刺繍された大マネキも奉納されます。



◀丸参柳原講  
(柳原稻荷神社・千住柳原2-38-1)

講の発足から14周年にあたる昭和8(1933)年に、富士山の分霊をいただき御山を築きました。毎年7月1日に、神職による神事と柳原箕輪電子連によるお籠りの奉納が行われます。